

《担当者名》向谷地生良 ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

「人間が精神を病む」という現象を、いかに捉えるかという議論は、精神生物学や精神病理学、哲学、思想等広範な領域を巻き込む深遠なテーマとして今日に引き継がれている。それは、ともすれば病をかかえる当事者不在の議論になりがちであった。エンパワメント・アプローチの視点は、その議論の中心に、あらためて当事者の視点を持ち込むことの正当性を主張し、昨今の精神生物学的な治療への偏重を批判する。本講義は、当事者論の視点から、「精神医学」の歩んだ歴史と周辺の理論の整理をし、浦河べてるの家で試みられている「当事者研究」の実践活動から、当事者論を学ぶ。

【学修目標】

精神病理学から現在の精神生物学的な精神医学まで、その歴史の変遷を理解し、その影響下で発展してきた精神保健福祉領域のソーシャルワーク実践の今日的な課題を学ぶ。

精神疾患をめぐる現象学、精神病理学の論議と障害学の提示する課題を学ぶことにより、「当事者」のもつ可能性を研究する土台となる知識を得、自分の見解を述べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業の進め方	講義の全体の構成、狙いについて	向谷地生良
2~4	人類学の視点から、精神医学の実践を問い直す	鈴木晃仁他・精神医学の哲学2「精神医学の歴史と人類学」	向谷地生良
5・6	当事者の臨床知に学ぶ その1	向谷地生良「技法以前」	向谷地生良
7・8	当事者の臨床知に学ぶ その2	石原孝二編「当事者研究の研究」	向谷地生良
9・10	ソーシャルワーク理論における当事者論	狭間 香代子：社会福祉の援助観	向谷地生良
11~14	当事者研究の世界	当事者研究の実際	向谷地生良
15	まとめ	当事者の知に学ぶ	向谷地生良

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講読のプレゼンテーション（50%）および討議への参加（50%）などにより評価する。

【教科書】

授業計画に示す講読書物と同じ

【学修の準備】

関連文献を読み、ディスカッション等に反映できるような準備が望まれる。